

2007 年度 年次報告書
Annual report 2007-08



2008 年 5 月

特定非営利
活動法人

西浜サーフライフセービングクラブ

目 次

1	理事長挨拶	1
2	クラブ概要	2
3	クラブビジョン	4
4	クラブトピック	5
5	2007 年度活動概要	7
6	パトロール委員会レポート	9
7	教育委員会レポート	13
8	競技委員会レポート	16
9	イベント委員会レポート	18
10	事務局レポート	20
11	サポート企業一覧	22



1. 理事長挨拶



西浜 SLSC 理事長 土志田仁

2007年度はクラブ活動に対してご理解、御協力誠にありがとうございました。2003年にNPOに組織変更して以来5年間が経ちましたが皆さんはこの年月をどのように感じていますでしょうか？さかのぼること1963年に片瀬西浜に監視員の活動が行なわれるようになってから多くの先輩方によってその歴史は作られてきました。その歴史たる内容はとても簡単に語れることではありませんが、間違えなく言える事としては、数々の救助記録と不幸にして達成できなかった事も含め毎年後輩達に伝達され、その反復と反省を繰り返し改善することによりここ数年のシーズン中の『事故記録ゼロ』という、ライフガード活動にとって最大の名誉となる記録を更新しております。これは諸先輩達の指導は勿論のこと、近年の救助機材や技術の革新を現場のライフガードが忠実に学び修練した結果と思います。新しく入って来るメンバーからよく聞く言葉で『歴史ある西浜で活動を共にしたい、日本で一番過酷で厳しい浜でライフガードをやってみたい』とありがたい言葉を頂きます。これもまた先人の努力と現在のメンバーへの継承の賜物と感じておりますが、あくまでも謙虚な姿勢を忘れずに取り組んで頂きたいと思っております。NPOを取得してからの大きな変革としては、ビーチクリーンを中心とした年間を通じてのクラブ活動の実施、地元から次世代のライフガードを育て上げるジュニアライフセーバーの育成などがあげられます。そのジュニアも人数は50名を上回る参加者になり、地元は勿論のこと日本協会からも注目を集めております。その他にも特筆すべき事は多々ありますが、どれも皆クラブメンバーの努力、地元関係者やご父兄の協力があるの事と思っております。継続をする事の難しさと大切さを振り返りながら新しい事に対するチャレンジ精神も忘れずに『チーム NISHIHAMA』がんばっていきたく思います。末筆になりますが皆さんにとって2008年度が素晴らしい年になりますよう御祈念年申し上げますと共に、また笑顔でお会いしましょう。(文責：理事長 土志田仁)



2. クラブ概要

設立趣旨：このクラブは、藤沢地域の海水浴場及びプールの安全指導，監視，人命救助を通じ，ライフセービング活動の普及を図るとともに，ビーチクリーン活動による地域社会への貢献や，ジュニアライフセーバー教室開催などによる，青少年の健全な育成を目的としています。

名称：西浜サーフライフセービングクラブ
 設立：1963年 【日本初のライフガード組織】
 2003年 NPO法人取得
 活動拠点：藤沢市片瀬西浜海岸 鵜沼海岸 片瀬東浜海岸 江ノ島岩屋
 事務局：〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸3-15-22 メゾン西浜101
 Tel&Fax :0466-23-5353
 e-mail :info@nishihama.org URL :www.nishihama.org

会員：正会員 :140名(2008年3月現在)
 賛助会員 :2団体,5名計16口(2008年3月現在)
 ジュニア会員 :52名(2008年3月現在)

役員：代表 土志田 仁
 監事 宮崎 尊
 理事 渡部 秀人(会員管理担当)
 澤田 喜生(総務担当)
 遠藤 大哉(パトロール担当)
 平藤 昌寛(パトロール担当)
 入谷 拓哉(競技・教育委員会担当)
 村川 新(イベント委員会担当)
 風間 隆宏(事務局担当)

委員長：イベント委員長 三浦 秀樹
 パトロール委員長 篠 岳瑠
 競技委員長 植木 将人
 教育委員長 新山 真以
 事務局 原 伸輔
 東浜パトロールキャプテン 遊佐 雅美
 西浜パトロールキャプテン 渋谷 錬



図 2-1 西浜 SLSC クラブ活動拠点図

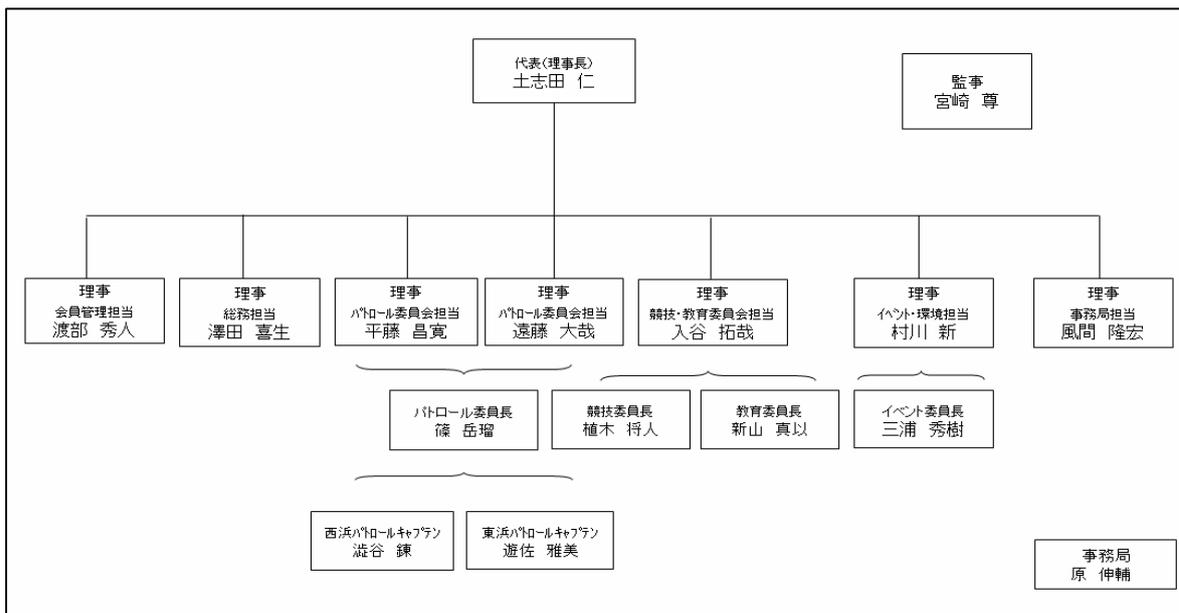


図 2-2 2007 年度西浜 SLSC 組織図

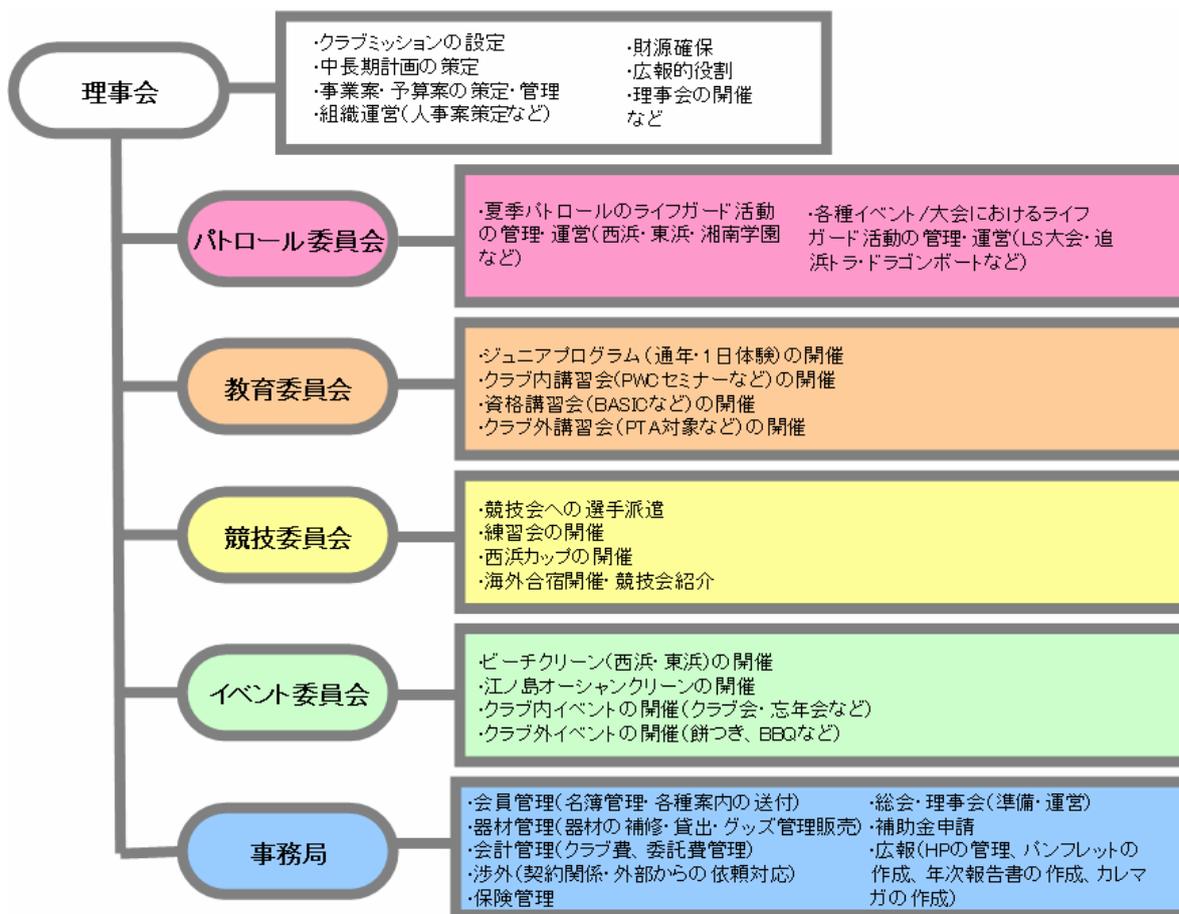


図 2-3 西浜 SLSC 活動概念図

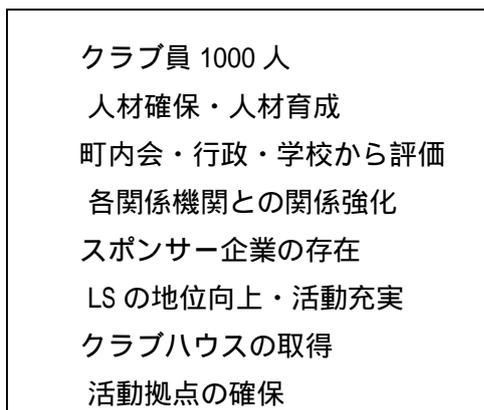


3. クラブビジョン



図 3-1 西浜 SLSC クラブビジョン

西浜 SLSC は、藤沢地域にライフセービングを普及するために、各関係機関と協力して



をクラブビジョン(目標)に活動しています。



4. クラブトピック

日本ライフセービング協会（JLA）の2007年度ライフセーバー・オブ・ザ・イヤーに相澤千春さんが選ばれました。



JLA 総会時の受賞（右は小峯 JLA 理事長）
（写真提供：日本ライフセービング協会）

ボンダイ・ビーチでのインターナショナル・サーフレスキュー・チャレンジ日本代表選手団一員としての参加を終え帰国後、納会を数日後に控えた師走の日、思いもかけないライフセーバー・オブ・ザ・イヤー受賞の報を受けました。

あまり事態をよく理解しないまま納会当日は会場へ出向きました。会場での皆様との歓談後、司会の方よりいよいよ「各部門別に表彰」の案内があり、国際交流は何の部門で呼ばれるのかと思いながらひとり、ふたり・・・と進んでいきました。実は名前を呼ばれる寸前まで、私の受賞が「部門」ではなく表彰の最後を飾るライフセーバー・オブ・ザ・イヤーであるという自覚が全く無かったので、小峯理事長が自ら受賞の経緯をご紹介くださり、手渡されたその賞の重みにはたいへん感動いたしました。壇上でのスピーチでもお話いたしました。私は常々、「ライフセービング活動に私自身を育てていただいた」と実感しているので、感謝の思いで一杯です。

鵜沼に越してきて間もない1971年の初夏、知り合いに誘われて西浜での赤十字の水上安全法講習会に初めて参加したのが私のライフセービングのスタートでした。その夏西浜で、尋常ではない黒さに日焼けして、夕方になると背中に大きな十字のマークをつけたライトブルーのスイングトップを着て肩で風を切りながら歩く小集団に出会いました。それまでの私の友人達の多くは、映画・音楽・車等に夢中になることが多かった中、「人の命を救う、海辺の事故を未然に防ぐ！」をテーマとする同年代の集団は、私の目にはカッコ良く、新鮮でした。（ちなみに...主人相澤重男は、当時の警備長でした。）湘南指導員協会、日本ライフガード協会、そして日本ライフセービング協会という変遷の中、活動を通して多くの人達と出会い、組織作りを通して感動もそして困難も体感してきましたが、それらのすべてが今の私にはかけがえのない財産であり、「育てていただいた」という思いを強くするのだと思います。

贈呈していただいた額入りの立派な賞状をどこに飾ろうかと家の棚を眺めていたら何と、



1987年(20年前)にいただいた日本ライフガード協会からのライフセーバー・オブ・ザ・イヤーの小さな盾が目に残りました。このダブル受賞と、ついつい文句を言いながらも「止めても無駄だ…」とあきらめ半分で家を送り出してくれる主人に心から感謝です。

80年代前半から、豪日交流基金のご支援で、5年間に渡る豪日交流プログラムが始まりました。5年目には、私自身もジュニアプログラム視察研修をテーマに渡豪、SLSA本部やコナラ地域のジュニアプログラムや大会を視察し、日本とのギャップにもものすごい衝撃を受けましたが、それが私のエネルギーの導火線にもなったような気がします。湘南地域でも毎年オーストラリアからのライフセーバーを数名受け入れ、セミナーや市内の小中学校でのプログラム等、指導にあたっていただきました。当時日本ライフガード協会では資金が乏しく、宿泊や食事の提供も思うように行かず、仕方なく我が家にホームステイが恒例となり、必要に迫られて私自身のライフセービング・イングリッシュ・プラクティス(たどたどしい会話をもがき苦しみながら重ねているうちに、英語力がついてきました)となりました。その継続が功を奏し、今では海外の組織との連絡窓口や、日本代表選手の海外遠征のコーディネート等をさせていただいています。ライフセービングをキーワードに世界中の方々とお会いする機会に恵まれてきました。国や地域、政治や宗教、またその人自身の置かれた状況により、ライフセービングへの取り組みやその成果は様々ですが、公式会議の場や、また時にはグラスを傾けての歓談の場で、喧々譁々ライフセービングを熱く語る瞳に国境はありません。

今、国際ライフセービング連盟は、アジア地域の発展途上国における幼児童の死亡原因の上位に「溺水」が挙げられているという現実に注目をし、すでに関連する国際機関と協力しながらその大きな課題に取り組み始めています。水場が生活圏に密着していて、しかも人口が集中している地域で頻発する溺水事故で命を失う幼少年の数は、開発途上国特有のコレラやチフスなどの伝染病や交通事故による死亡数をはるかに上回るという現実に、オーストラリアやイギリスの協会からは定期的にインストラクターを派遣し、地域に少しでも多くのライフセービングの指導者を育てるというプロジェクトを始めています。近年、ライフセービング国際会議の場では、アジアにおける日本の役割に大きな期待が寄せられています。アジアが抱える問題にお膝元の日本が「何をすべきか、何ができるか」は私達の緊急の課題とも言えることです。

伝統と組織力においても日本を代表するクラブ、多岐に渡る優秀な人材を有する西浜SLSC。世界に貢献できるクラブに成長できるよう知恵と力を発揮しましょう。(文責：相澤千春)



5.2007 年度活動概要

西浜 SLSC では、本年度もパトロール・教育・競技・イベントを柱に多様な LS 活動を積極的に行った。以下にその概要を報告する。各活動の詳細レポートは、次章以降を参照されたい。

パトロール：夏季期間（7-8月）に藤沢市片瀬西浜・東浜・江ノ島岩屋でパトロール活動を行った。延べ 1,200 人のメンバーがパトロールに参加し、そのうち約 1 割がボランティア（無給）として参加した。2007 年は記録的猛暑の影響もあり、藤沢市内の海水浴場（辻堂含む）を訪れた海水浴客は前年より約 30.6 万（7・6%）多い約 433.4 万人であった。パトロール対象区域では、メンバーの努力の結果、無事故（死亡事故ゼロ）で達成することができた。しかし、8月にパトロール対象区域に隣接する引地川河口で中学生 2 名が亡くなる痛ましい事故が発生した。捜索には多くのメンバーがボランティアで駆けつけたが、捜索時の各機関との協力体制などに課題を残した。また夏季期間中に発生した津波注意報への対応も、関係機関との協力が不可欠であることを再認識させられた。夏季期間以外（5-6月、9-10月）の週末にもボランティアパトロールを行った。さらに片瀬西浜で行われた全日本 LS 選手権など各 LS 大会や江ノ島ドラゴンボートレース・追浜トライアスロンなどへの大会運営協力、今年度からの試みとして湘南学園のプール授業のガードも行った。

教育：年間を通したジュニアプログラムは、年々その活動規模を拡大し、本年度は 50 名を超えるまでになった。年間 24 回（月 2 回）のプログラムは、海の基本的知識から安全な遊び方、大会への参加。三角巾やプールでの指導など多岐に渡り、日本のジュニアプログラムの一つの方向性を示している。新しい試みとして茨城県大竹 LSC へ訪問し合同合宿を行った。また短期間で行う体験プログラムの依頼も増え、夏季期間を中心に 16 回、参加者は 800 名を越えた。クラブ外向けの講習会として日本ライフセービング協会（JLA）公認の BASIC サーフライフセーバー講習会（22 名参加）や資格更新講習（9 名参加）を開催、地元小学校の PTA を対象とした安全講習会にも講師を派遣した。クラブ内向け講習会として、IRB/PWC セミナーを 3 回開催。JLA インストラクター養成講習会にも積極的に参加し 6 名の新インストラクターが誕生した。

競技：まず特筆すべき点として、10 月の全日本 LS 選手権に総合 2 連覇（合計 7 回目）を達成したことである。台風のうねりの入るなか、地元開催でビーチフラッグス男女（植木将人・遊佐雅美）、サーフスキー男子（入谷拓哉）の優勝を含む 6 個のメダルを獲得し大会を盛り上げた。9 月に西浜で行われた国際ショナルライフセービングカップには日本代表に長竹康介・植木将人が選ばれ、植木がビーチフラッグスで豪州勢を破り優勝した。11 月に発表された JLA 強化指定選手には 7 名（荒井洋佑・入谷・植木・北矢宗志・高橋崇・長竹・遊佐）のクラブ員が選ばれた。さらに JLA 競技運営委員長に深山元良、競



技力強化委員長，日本代表監督に遠藤大哉，代表コーチに入谷拓哉が選出されるなど，多くのメンバーが競技・大会スタッフとして活躍している．ジュニアの大会にも積極的に参加し，8月に東浜で行われたジュニアライフセービング競技会では各年代で表彰台の独占を含む22個のメダルを獲得した．日々のトレーニングも全日本前の西浜合宿や冬場にはプールでの朝練・Saturday Paddling Challenge の名づけたサーフスキートレーニングなどをメンバーが集まり行っている．

イベント: 毎月第2日曜日に鵜沼海岸に行っているビーチクリーン活動は8年目を向かえ，今年からは Share surf room との共催となった．ビーチクリーンは，サーファーや地元住民など多くのメンバー以外の参加が見られ地元に着しつつある．またビーチクリーン後にAEDセミナーの開催も行った 2007年12月からは東浜でもビーチクリーンを行っている．さらに，クラブの特徴を生かしたオーシャンクリーン（ボードやカヌー等で江ノ島までパドリングして行き徒歩ではいけない場所の清掃）を11月に行った．クラブ内イベントとして，7月に激励会，8月にクラブ会，12月に忘年会を開催しメンバーの交流を深めた．さらに地元西浜町内会の協力を頂き1月に餅つき大会を開催した．ジュニアも含めた多くにメンバーや地元住民も参加し，毎年恒例の行事になりつつある．

事務局: 渉外・会計・器材・会員管理業務を中心にクラブ運営の下支えを行った．まだまだ手探りな部分は多々あるが，一步一步改善してきている．今年度は補助金申請を積極的に行い，笹川スポーツ財団のSSFスポーツエイド助成事業，藤沢市の藤沢市公益的市民活動助成金，松下電器のPanasonic NPOサポートファンドの助成を受けることができた．また地元の湘南マリライオンズクラブ様よりAED一式の寄贈をして頂いた．従来よりサポートを受けているBILLABONG様からは大会ウェア，TIMEX様からは時計・テントの提供を今年度も引き続き頂いた．さらにビーチクリーン時には毎回イースト様よりコーヒーのご提供頂いた．上記以外にも多くの協力店のサポート（協力店一覧参照）や様々な方々の有形無形のサポートを受けた．ここに記して深甚なる謝意を表したい．



ジュニア大竹合宿



全日本選手権（西浜）



6. パトロールレポート

2007 年度も死亡事故 0 を達成しました。誰もがライフセービングをしていれば心から願う死亡事故 0。きっと心ある人なら世界中の誰もが願う死亡事故 0。私の経験からすると浜のキャプテン（責任者）を担うものは、皆「無事故を達成する」と夏前に宣言している。

今年の夏も例外ではない。東西キャプテンの遊佐と錬もそうだった。この事がどれだけ大変で、どれだけプレッシャーの中で 2 ヶ月を過ごしたかは今年度を経験した今年度のキャプテンにしかわからないと思う。不安・恐れ・緊張・時には孤独を感じることもあっただろう。でも二人はやりきった。結果は死亡事故 0。

私は二人を誇りに思う。西浜 SLSC という個性豊かなメンバーの上で、あれだけの人間が来る浜で、キャプテンをする。並大抵なことではないから。タラ、レバをいったらきりが無いし、無いものをねだってもではこない。その環境で人の上に立ち指揮をとった事で、二人は更なる高みに上がり、ライフセーバーとしても人としても成長できたことでしょう。それがキャプテンの醍醐味ともいえる。またひとつ歴史に名前を刻んだ二人に賞賛を送りたい。そして更なる飛躍を期待したい。

次に、この夏一番頑張った次世代を担う学生についてここでは書かせていただきます。なぜ学生なの？俺・私のほうががんばったじゃないと思われるかたはいると思いますが、やはり私は今のクラブで必要なのは学生の自主性と積極性だと考えています。彼らの成長なくして今後のクラブの発展もないと思います。まさに彼らはクラブの宝といっても過言ではないでしょう（Jr もそういう意味では宝ですが、救助なので学生に限定させていただきます）。彼らはまさに原石であり、無限の可能性を秘めています。しかし、まだ彼らには自分で輝きを放つほどの力は持ってはおらず、生まれたてのひなのようなものである。だからこそまずは育ての親次第だと思います。しかし、ここ数年自分は彼らの存在を知りながら育てることを放棄していた気がします。故意ではなく、忙しさに追われていたのですが（いい訳です）。彼らが一番成長できる時期にその教育を放棄していた申し訳なさもあり、今年は本当に学生と一緒に過ごした気がします。自分がディレクターをすることで少なからず戸惑いを持っていた四年生・三年生。当たり前ですよね。今までと違うのだから、でも彼らは自分のスタイルをよく理解し一生懸命後輩の指導をしてくれました。自分がされたことが無いのに一生懸命やってくれました。上から教わったことが無いのに人に教える難しさを経験した彼らは社会に出てもきっと大きく飛躍してくれることでしょう。特にしんどかった二年生。本当によく頑張りました。時にきつく言った事もありましたが、君たちの成長を思っていることだと勘弁してください。その浜の良し悪しは二年生で決まるとというのが自分の持論なので、本当に君達には期待しています。自分がやったことが正しいか間違っていたかは君たちが 4 年生になり、君達のうち誰かが警備長になったときだと思っています。そしてがむしゃらになって砂浜を走っていた一年生。君たちと接することで本当に新鮮な気持ちになり、初心に戻りました。ありがとう。この冬一年生と海で会えたとき本当に嬉しかった。



僕らライフセーバーにとって夏の終わりは、次のシーズンの始まりです。だから一生懸命な彼らはきっと今年の夏も強烈に光輝いてくれるでしょう。学生のみなさん汗をかきましょう。体と心にたくさん汗をかきましょう。必ずその汗の結晶が君たちをより光輝かせます。私は心から期待しています。

個人的な感想を言わせていただくと、今年は久々に心底疲れました。体も精神もすり減らしたシーズンでした。でもライフセービングを始めて一番自分が成長できたシーズンだったかもしれません。やっぱり人間は楽ばかりしていると成長は望めず。苦労苦難を乗り越えることで成長できるのだと実感しました。そしてそのような環境を与えてくれた理事長・理事の方々・クラブのメンバー・海浜のお客さん・組合の方々・サーファーの方々・この夏海に来た全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

自分がライフセーバーとしての産声をあげてから11年の時が過ぎた。いつのまにかクラブで一番長く浜で警備することになっていた。本当に使えない新兵だった(当時の自分は怪我で走れない泳げない体でした。ちなみに警備長は風間理事、同期は結局、重ひとり)。まさに生き地獄。ここは軍隊って?本気で思った。あの地獄のような一年目を経験したから今の自分がいると思う。若いときの苦労は買ってでもしろとはよく言ったものだ。今ではあの一年が財産になっている。そして使えない自分がいやで何かを得たいと我武者羅にその冬から海に通った。そのおかげで次の夏から自信を持って夏の柵前でボードパトロールができた。波に乗って遊泳客を避けながら帰ってくるようになってきた。先輩に信頼され、後輩に尊敬されるような人物に少し近づけた気がした夏だった。継続は力だと心から思う。何にも能力も才能も無い人間でも続けることで成長ができること、志を高く決して諦めない気持ちがあれば人は変わっていけると海とライフセービングが教えてくれた。それから11年、浜ではたくさんの苦労苦難に遭遇した。辛いことしかない様に見えるライフセービングをなぜ自分がここまで続けてこれたのか?自分でも不思議に思う時がある。でも胸を張っていえることがある。そこに素晴らしい出会いがあったからやってこれたのだと。自分にライフセービングとともに人生に必要なことを時に厳しく、時に優しく教えてくれた先輩(いまでは兄貴・親父みたいな関係)。精神も肉体もぎりぎりの状態で支えない、励ましあい、時にけんかをする仲間、常に新しい刺激と発想を与えてくれる後輩、人間は損得勘定だけではないと教えてくれた海の家の人々、自然を愛する気持ちと自然に対する尊敬の気持ちを教えてくれたサーファーや海で出会った人々、人間の汚い部分ときれいな部分を見せえくれるお客さん、etc.みな全て自分の人生の教師である。人生で欠かせない出会いである。ライフセービングを通じて知り合った人間関係は、人生において何よりも宝である。特に共にガードをすることで生まれる関係は自分にとってたくさんの家族を与えてくれた。損得関係ではなく、人の命を救う・事故を未然に防いで安全な状況で人々に海を楽しんでもらうという責任を互いに背負いあうことで出来る信頼関係は他では決してできない関係だと思う。時には自分の命を預けることもある。まさに救助活動とは、人の命を救う以上に、自分自身が自分の心が救われ、人生が、心が豊かになる場所



だと思ふ。

パトロール委員会では、2008年のシーズンもまたクラブのメンバー全員が浜に訪れ、自分のできるライフセービングが笑顔でできるように、その環境を整えていきたいと思ひます。でも皆さん忘れないでください。自分が心から楽しめる環境は自分が一歩踏み出して始めてできるものだということ。自分の心を満たしてくれる環境は自分にはしか作れないということ。みんなでライフセービングしましょう。自分でできることを。自分でできるペースで。人それぞれ関わり方は違って良いのです。海を愛する・人を愛する気持ちがあればいつでも誰でも参加してほしい。人の命を背負う責任・人の命を救うことのプライド・情熱この3つをクラブメンバー全員が持ってくれたら感無量です。LOVE & PEACE (文責：パトロール委員長 篠岳瑠)



夏季パトロール(東浜)



夏季パトロール(西浜)



夏季パトロール(東浜)



夏季パトロール(西浜)



表 6-1 東浜パトロール時間

	名前	パトロール時間
1	遊佐 雅美	600
2	石川 修平	449.5
3	京谷 真有	375.5
4	高橋 崇	302
5	有川 真奈斗	268
6	米田 豊土	256
7	荒井 洋佑	176
8	村山 貴司	164.5
9	三浦 秀樹	161
10	亀井 斉	157
11	磯畑 光幸	129
12	青木 清司	124.5
13	中島 章	107.5
14	杉山 智	100
15	福岡 慶太	97.5
16	植木 将人	91
17	高木 溪太	86
18	秋田 一樹	83
19	澤田 哉	61
20	野添 めぐみ	55
21	伊瀬 拓哉	50
22	草柳 尚志	33
23	大谷 貴志	30
24	塚根 雄也	30
25	渡部 健太	24
26	松澤 友樹	19
27	勝俣 閑	17
28	御子柴 章	16
29	高伊 重道	14.5
30	谷中 健文	12.5
31	後藤 千沙美	12
32	早川 慶太郎	10
33	新山 真以	10
34	濱田 絵南	10
35	原 伸輔	10
36	熊木 悠司	10
37	澤田 喜生	10
38	熊坂 多恵	10
39	橋本 淳太郎	8
40	津中 貴岐	7.5
41	志賀 雄一	7.5
42	中川 健	6.5
43	蛭間 達矢	5.5
44	高橋 要	3.5

表 6-2 西浜パトロール時間

	名前	パトロール時間
1	澁谷 錬	620
2	後藤 千沙美	524
3	渡部 健太	430
4	御子柴 竜	354
5	高橋 要	325
6	宮崎 あずさ	325
7	谷中 健文	310
8	鬼塚 浩平	302
9	中澤 徹	290
10	原 伸輔	287
11	濱田絵南	281
12	福島香夏美	281
13	城間 盛隆	280
14	森本 絲子	275
15	上條 胤臣	258
16	金子 悠太	230
17	今井 瑞葉	220
18	水上 篤	215
19	津中 貴岐	200
20	遠藤 涉	196
21	野添 めぐみ	189
22	有川 真奈斗	155
23	菅野 豪	128
24	早川 慶太郎	115
25	蛭間 龍矢	109
26	和田 幸太郎	90
27	長竹 康介	88
28	志賀 雄一	80
29	京谷 真有	76
30	後関 裕輔	60
31	入谷 拓哉	50
32	石川 修平	48
33	五味 篤	44
34	風間 隆宏	36
35	三留 規誉	36
36	鈴木 智晴	35
37	新山 真以	34
38	金坂 光太郎	30
39	井原 洋平	29
40	田中 友数	28
41	小澤 知史	27
42	北矢 宗志	26
43	中本 恵子	26
44	石原 進介	25
45	松本 拓哉	25
46	柿崎 貴文	22
47	柴木 俊吾	20
48	戸澤 翔子	20
49	久保 亮介	20
50	高橋 邦佳	20

	名前	パトロール時間
51	鈴木 純平	20
52	松尾 賢太郎	18
53	澤田喜生	17
54	高橋 崇	17
55	中島 章	15
56	石川 勉	15
57	磯畑 光幸	14
58	門井 洋介	13
59	西下 優一	12
60	吉田 佳世	11
61	川島 勝	10
62	小嶋 大輔	10
63	荒井洋佑	10
64	村山 貴司	10
65	三浦 秀樹	10
66	寺本 圭子	10
67	藤野 真進	10
68	児玉 圭介	10
69	雲野 和幸	10
70	橋本 泰	10
71	竹内 克樹	10
72	小泉 太郎	10
73	江原 嘉文	10
74	廣瀬 香里	10
75	青木清司	9
76	人見 栄輝	9
77	穴倉 則也	7
78	宮野 実	6
79	小松	5
80	鈴木 篤	5
81	大西 正規	5
82	飯塚 武	4
83	伊藤 航人	4
84	五十嵐 徹	4
85	高木 溪太	3
86	平藤 昌寛	3
87	宮崎 尊	2



夏季パトロール (西浜)



夏季パトロール (西浜)



7. 教育レポート

ジュニアプログラムの開催

ジュニアライフセーバー教室

・地元の小・中学校，地域子ども会など約 10 団体の教室を開催

今回小学校では，授業の一貫としてプールを使った実技指導を展開し自分の身を守る方法を中心に，着衣泳などを体験してもらいました。「海・川は危険な場所」なのではなく，「知識・技術があれば楽しく関われる豊かな場所」であることを地域の子供たちに根付かせることが目的です。子供へは活字ではなく，体で覚えることが大変重要ですので今後も藤沢市小中学校の全校で海での教室開催を目標に掲げて参ります。

西浜ジュニアライフセービングプログラム

・クラブ会員となり，月に 2 回のプログラム及び競技会への参加や大竹合宿を開催

クラブ員登録した小学生～中学生が，ライフセービングというテーマで集結し礼儀や挨拶はもちろん，海での知識，技術を進んで学ぶ姿勢が特徴です。低学年は上級生に憧れを持ち，大きな影響を受けて成長していますし，上級生は異年齢特有の気遣い，心配りが微笑ましく，アットホームなチームカラーの源となっています。また，ジュニアの競技会が通年化されたおかげで，個々の目標設定ができ活動の意識付け，自信につながっています。他クラブの参加人数も増えてきており，今後の盛り上がりを楽しみます。湯河原 VS 西浜は，大人同様火花が散っています。

ライフセービング資格講習会に関するサポート

ライフセービング資格取得（HPにて，クラブ会員へ講習会の参加促進）

海から遠退いたクラブ員が，また夏のライフガード舞台へ立つ為のきっかけとして資格取得の呼びかけをしています。競技会に選手として参加するだけでなく，C級審判を取って大会運営のお手伝いをしてくださるメンバー増員も目指しています。インストラクター取得のメンバーが増えたことも，大きな飛躍です。

資格講習会の開催

ベーシック講習会の開催，更新講習会の開催

第 2 回目のベーシック講習会を開催しました。学生を中心に受講者が集まり，クラブ員獲得へ一歩前進しました。若い力が今の西浜には必要なので，来年度もさらに力を入れて取り組む必要があります。また，ジュニア会員父兄や会員の奥様が参加する姿も見られ，ライフセービング普及の可能性がまたひとつ見えた気がしました。

クラブ講習会（セミナー）の開催

IRB & PWC のメンテナンス，スキルアップセミナーの開催（年 3 回）

夏前の準備はもちろんですが，冬の時期にもお手入れをしたり海に入って技術を磨く機会を設けています。冬場の参加人数を増やすため，クラブ員の積極的な参加が今後の課題です。



我が西浜教育委員会の誇りは、愛するジュニアメンバーの存在です。口コミで輪が広がり、今では50名を超える勢いです。初めは誰もが、海のしょっぱさに顔をしかめます。春の海はまだ冷たくてもう上がりたいと弱音を吐く子も当然います。でも、毎回参加するごとに自信がつき、顔つきが見事に変わります。今年のオブザ・イヤーは、この変化が最も著しかった内堀まりんちゃんが選ばれました。指導の中で、海には危険がたくさんあります。でも「危ないから」やらないのではなく、なぜ危ないのかという理由を事前に確認しあい、危険回避の方法をみんなで考え、意見を出し合い学びます。また安心感を持って取り組めるように、指導者はもちろんのこと子供たちの父兄も一緒になって入水し、チームを丸ごとバックアップしていただきます。競技大会にも参加しますが、勝ちが一番大事なのではなく、みんなで高めあうことのすばらしさを経験します。中にはチーム内にライバルがいて、露骨に悔しがったり闘志をむき出しにすることもあります。負けからまた何かを学び、成長しています。みんな素直であったかい子供たちばかりです。アットホームな一体感が、大家族的な雰囲気となり、いつもまるで大きな光の輪に包まれているような気がします。将来、西浜ジュニア出身のメンバーが日の丸を背負って世界の舞台に立つ時地球の裏までも大きな応援旗を持って駆けつけます。声が枯れるまで、応援します。そんな日を夢見ながら毎回楽しくジュニア教室を行っています。誰もがその可能性を持った、金の卵たちですから・・・（文責：教育委員長 新山真衣）



年間ジュニアライフセービングプログラム



年間ジュニアライフセービングプログラム



表 7-1 年間ジュニアプログラム開催一覧

2007年		参加者数
4月8日	第1回ジュニアプログラム	22
4月29日	第2回ジュニアプログラム	18
5月13日	第3回ジュニアプログラム	27
5月27日	第4回ジュニアプログラム	21
6月10日	第5回ジュニアプログラム	27
6月24日	第6回ジュニアプログラム	32
7月8日	第7回ジュニアプログラム	31
7月22日	第8回ジュニアプログラム	22
8月12日	第9回ジュニアプログラム	
8月26日	第10回ジュニアプログラム	31
9月9日	第11回ジュニアプログラム	25
9月23日	第12回ジュニアプログラム	28
10月14日	第13回ジュニアプログラム	32
10月28日	第14回ジュニアプログラム	36
11月11日	第15回ジュニアプログラム	23
11月18日	第16回ジュニアプログラム	20
11月25日	第17回ジュニアプログラム	19
12月9日	第18回ジュニアプログラム	29
12月23日	第19回ジュニアプログラム	35
1月13日	第20回ジュニアプログラム	28
1月27日	第21回ジュニアプログラム	28
2月10日	第22回ジュニアプログラム	25
2月24日	第23回ジュニアプログラム	35
3月9日	第24回ジュニアプログラム	25

表 7-2 体験ジュニアプログラム開催一覧

2007年		参加者数
5月30日	神戸市立高倉中学校ジュニアプログラム開催	120
6月1日	昭和第一学園高校ジュニアプログラム開催	20
6月8日	藤沢市小糸小学校教師・PTA CPR講習会開催	30
6月10日	ボーイスカウトジュニアプログラム開催	50
6月25日	藤沢市立小糸小学校水泳授業指導	120
6月28日	藤沢市立湘南台小学校水泳授業指導	90
6月29日	藤沢市立亀井野小学校水泳授業指導	90
7月25日	B & G財団江ノ島海洋クラブジュニアプログラム開催	19
7月29日	第一三共リゲインジュニアプログラム開催	20
8月1日	アクラブジュニアプログラム開催	12
8月6日	鎌倉市立腰越小学校ジュニアプログラム開催	30
8月19日	キッツスポーツクラブジュニアプログラム開催	50
8月22日	藤沢市立片瀬中学校ジュニアプログラム開催	20
11月16日	藤沢市善行中学校総合学習ジュニアプログラム開催	5
11月22日	神奈川県立深沢高校NPO見本市参加	120
12月4日	藤沢市PTA南部ブロックライフセービング講演会開催	30

表 7-3 資格講習会開催一覧

2007年		参加者数
4月15日	更新講習会開催	9
12月4日	ベーシック講習会開催	22

表 7-3 IRB/PWC セミナー開催一覧

2008年		参加者数
1月3日	第1回IRB・PWCセミナー	2
2月6日	第2回IRB・PWCセミナー	12
3月9日	第3回IRB・PWCセミナー	14



藤沢市PTA対象ライフセービング講演会



BASIC講習会



IRB/PWC セミナー



BASIC講習会



8. 競技レポート

競技委員長を務めさせていただいてお陰様で今年で4年目になりました。毎年、今年の本気「愛」で2007年度は全日本総合2連覇を達成することができました。改めまして、感動と応援を感謝致します。ありがとうございました。残念ながら昨年の全日本ではレスキューチューブ、レスキューボード、タップリンの3種目が天候の関係で実施できず、レスキューの総合NO.1を決める全日本でこの3種目が実施されなかったことは非常に残念に思いました。だからこそ、今年も総合優勝成し遂げたい！私は昨年の打ち上げ以降そう思い続けています。今年もまた気持ちを新たに皆さんで総合優勝を勝ち取りましょう！！

今年も西浜から日本代表選手が2名、強化指定選手Aが7名選ばれました。毎年日本を代表する選手が選出されるなか、強化指定選手B(U22)が0名という事実もあります。一方ジュニア競技会では西浜ジュニアが大活躍し盛り上がりを見せています。今、競技委員会が行わなければならないのは夏のパトロールでも主となる学生の競技力・救助力の強化とジュニア、ニッパーズの受け入れ準備だと考えています。

2008年度、新たな夢を手に入れるために競技委員会は動きます！今まで皆さんが積み上げてきたものを、より具体的に、より前へ進めて行こうと思っています。まずはこれまでなかなか実施できなかった年間を通した継続的な合同練習会を開催します。みんなが集い、愛深まるクラブを目指して。特に学生にはまだまだこれから夢を見てもらわないと困ります。全豪に出たい！インタークラブに出たい！世界の舞台で自分を試してみたい！と。もちろんその前に日本一を目指すチームに選手として貢献してもらいたいですね。本気で強くなりたい人、本気で強くさせたい先輩達が待っています！クラフト・スイムは長竹康介と京谷真有、ビーチは植木将人がコーチとして担当します。レスキュー練の時期にはパトロール委員会と連携して行う予定です。今、西浜の競技力・救助力強化のためにやらなければならないことは、皆さんが西浜の海をフィールドに仲間と共に集うことです。理想のクラブを皆さんの手で創っていきましょう！！

競技がライフセービング活動の良いきっかけになっていることは事実、またモチベーションを保てるのも競技の特色です。競技力の向上は確かに救助力の向上に繋がっています。しかし競技といってもみんながみんな勝つことを目指さなくてもいいと私は思います。それぞれがそれぞれの立場から何らかの形でライフセービングに携わり、ライフスタイルの一部として、多くの人々の心の中に宿ることができれば、日本一の西浜を皆さん一人ひとりが感じることができると私は思っています。(文責：競技委員長 植木将人)



表 8-1 2007 年度大会結果

神奈川オープンサーフ(2007/5/27:辻堂)	
ビーチフラッグス	2位 北矢宗志 4位 植木将人
サーフスキー男子	2位 長竹康介 6位 石川修平 7位 松尾健太郎
サーフスキー女子	2位 新山真以 7位 京谷真有
ボードレース男子	松本拓也
ボードレース女子	5位 新山真以
アイアンマン	優勝 長竹康介
アイアンウーマン	5位 京谷真有
レスキューチューブ	優勝(長竹、京谷、御子柴、松本)

三洋インターナショナルLSカップ(2007/9/1:片瀬西浜)	
ビーチフラッグス	優勝 植木将人
ボードレース	6位 長竹康介
アイアンマン	9位 長竹康介

全日本選手権(2007/10/6-7:片瀬西浜)	
サーフスキー男子	優勝 入谷拓哉 6位 石川修平
ボード男子	準優勝 長竹康介
アイアンマン	4位 長竹康介
アイアンウーマン	6位 京谷真有 8位 新山真以
ビーチフラッグス男子	優勝 植木将人 4位 北矢宗志
ビーチフラッグス女子	優勝 遊佐雅美
ビーチスプリント男子	3位 北矢宗志 4位 植木将人
ビーチリレー	2位 柿崎、植木、松澤、北矢
CPRコンテスト	A判定 川島勝 長竹康介
チーム総合	優勝 西浜SLSC

全日本種目別選手権(2007/6/2-3:下田)	
ビーチスプリント男子	2位 北矢宗志
ビーチフラッグス男子	優勝 植木将人 2位 北矢宗志
ビーチフラッグス女子	優勝 遊佐雅美
サーフスキー男子	4位 長竹康介
サーフスキー女子	7位 新山真以
ボードレース男子	4位 長竹康介
アイアンマン	3位 長竹康介
アイアンウーマン	8位 京谷真有
タップリン女子	7位 (中本、新山、京谷、遊佐)

全日本室内選手権(2007/5/12-13:横浜)	
200Mスーパーライフセーバー	7位 長竹康介
100Mレスキューメドレー	7位 京谷真有
4×25Mマネキンリレー男子	4位(和田・長竹・石川・京谷)

表 8-2 2007 年度大会結果 (ジュニア)

ジュニアライフセービング競技会(2007/8/26:片瀬東浜)	
小学生の部	
ビーチフラッグス(小学生3、4年の部)	3位 小山 航季
ビーチフラッグス(小学生5、6年の部)	3位 上野 凌
ランスイムラン(小学生3・4年の部)	優勝 松崎 なつき 2位 小山 航季
ランスイムラン(小学生5、6年の部)	2位 上野 凌
ボードレース(小学生3、4年の部)	優勝 松崎 なつき 2位 小山 航季 3位 皆川 貴海
ボードレース(小学生5、6年の部)	優勝 上野 凌 2位 坂本 陸 3位 上野 真凜

ジュニアライフセービング競技会(2007/8/26:片瀬東浜)	
中学生の部	
ビーチフラッグス(中学生男子の部)	2位 小林 まりの 3位 坂本 陸
ランスイムラン(中学生男子の部)	2位 坂本 陸
ランスイムラン(中学生女子の部)	優勝 坂本 佳凜子
ボードレース(中学生男子の部)	優勝 坂本 陸 2位 小林 まりの
ボードレース(中学生女子の部)	優勝 坂本 佳凜子 2位 松崎 みづき
団体種目	
スイムリレー 小学生の部	優勝(上野、上野、皆川) 3位(小山、松崎、皆川)
スイムリレー 中学生の部	2位(坂本、坂本、松崎)



全日本選手権



ジュニアライフセービング競技会



9. イベントレポート

ビーチクリーンは早いもので、今年で8年目となりました。07年度のビーチクリーンは雨天中止となったのは1回のみということで、皆さんの日ごろの行いが良いためか、当日の雨天が非常に少ないようです。最近では、いろいろなホームページを見て参加したいという一般の人たちも増えてきました。一般の方々にも自然保護活動の意識が高められてきている証だと嬉しく思います。2007年12月より、片瀬東浜でもビーチクリーンを行っています。西浜でのビーチクリーンの後に開催するので準備・移動が大変ですが、これからの恒例としていきます。海の家オーナー達も多数参加していただいているので、今後は西浜と同じくらいの参加人数を目指して、呼びかけをしていきたいと思っております。後藤千沙美をはじめ、学生の皆さんいつも準備のお手伝いをして頂きありがとうございます！また、share surf roomのメンバーの皆さんもありがとうございます！皆さんの力がなければ、このビーチクリーンは開催できません。私は、皆で協力してひとつのイベントを成功させることができるということに、とても喜びを感じております。

また、オーシャンクリーンでは、5月が嵐のため中止となり、10月のみ開催となってしまいました。海のごみは残念なことに1回や2回ではどうしても取りきることができません。皆さんが思っている以上に、非常な深刻な問題となっています。このクラブでは年に2回しかオーシャンクリーンが予定されませんが、今後も引き続き、環境問題を考えながら、『海を大切に！地球を大切に！』という気持ちを忘れずに、開催したいと思っております。この活動を通してできるだけ多くの人に影響を与えられたら良いと感じています。

最後にもちつきですが、去年に引き続き大成功になり、最高なスタートができました。一年の最初のイベントということもあり、成功をさせるために昨年の暮れから準備を重ね、澤田喜生さんが町内会との架け橋となっていただき、日程や場所確保のために調整したり、大変な苦労がありました。他にも原藤晃君が静岡から、古屋雅章君が遠い船の上から手助けに来てくれました。おいしいお餅や豚汁が食べられたのも、陰で支えお手伝いして下さった皆さんがいてくれたからです。私自身、このもちつきのイベントは大変執着しており、一年の中で最高なイベントの一つです。それ故に達成感も非常に大きく、年を重ねるごとに素晴らしい恒例行事となるように試行錯誤してまいります。

イベントとは、その一日で開催されるのでその日限りとなってしまいますが、成功させるためには、準備に準備を重ね、大勢の協力なしでは得られません。私は6年間イベント委員長を務めさせていただきましたが、イベントは委員会メンバーだけではなく、クラブ員すべての人が関わり、協力し合って成功させるものだと思います。これからはクラブ員全員がイベント委員です！08年度は『世代交代』の年です！古いメンバーからうまく引き継いでいき、若手のメンバーがクラブの要となり、大きな力となっていけるように私も全面的に協力していきますので、西浜SLSCが日本一盛り上がっている、最高なクラブになるように《一致団結》して頑張っていきましょう！（文責：イベント委員会 三浦秀樹）



表 9-1 ビーチクリーン開催一覧

2007年	イベント
4月8日	第78回ビーチクリーン
5月13日	第79回ビーチクリーン
6月10日	第80回ビーチクリーン
7月8日	第81回ビーチクリーン
8月12日	第82回ビーチクリーン
9月9日	第83回ビーチクリーン
10月14日	第84回ビーチクリーン
11月11日	第85回ビーチクリーン
12月9日	第86回ビーチクリーン
1月13日	第87回ビーチクリーン
2月10日	第88回ビーチクリーン
3月9日	第89回ビーチクリーン

表 9-2 オーシャンクリーン開催一覧

2007年	イベント	
5月13日	第6回オーシャンクリーン	中止
11月11日	第7回オーシャンクリーン	

www.nishihama.org
Tel&Fax: 0466-23-5353 info@nishihama.org



ビーチクリーン



ビーチクリーン



ビーチクリーン後の AED セミナー



オーシャンクリーン



忘年会



餅つき大会

NISHIHAMA SLSC 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸 3-15-22 メゾン 西浜 101



10. 事務局レポート

今年度も、多くのクラブ員のサポートによってクラブ運営することが出来ました。まずは様々な形で協力してくれた皆さんに感謝いたします。事務局仕事としては、大きく分けて渉外（契約関係、取材対応、他団体からのリクエスト対応、会議出席）、会計（会費、委託金、助成金管理、支出の管理）、器材（所有器材及びクラブグッズの管理）、会員（情報提供、問い合わせ対応、理事会・総会対応）がある。クラブが大きくなるにつれて、仕事の量・質とももの高いものが求められてきている。しかしながら専従職員を抱えられるほどの財政基盤がない西浜SLSCにおいて、その仕事の大部分は、少ない謝礼や無償でクラブ員の皆様に行っている。ライフセービングクラブだけでなく他の多くのNPO団体が抱える財政や人材の問題が西浜SLSCにもある。NPOの運営が企業と大きくことなる点は、顧客が2種類あることと言われている。企業の顧客はお金を出してくれる者のみである。西浜SLSCの顧客には、労力（クラブ員など）やお金（助成金・業務委託者・寄付者・クラブ員など）を提供していただく資源提供者とサービスの受け手（海水浴客・ジュニアプログラム参加者など）がいる。事務局は、それぞれの満足度を考える必要がある。これがなかなか難しい。逆にこれが面白みでもある。クラブ員の中には、多くの活動に関われる人と、ほとんど関われない人（思いは強く持っている）など様々な人がいる。まずは、様々なクラブ員に対し、少しでも西浜に関わって良かったなと思ってもらえるような事務局運営が目標である。それがライフセービングの普及になり、海水浴場の安全に繋がるはずである。

今年度の新たな試みとして助成金申請を積極的に行った。幸いにも笹川スポーツ財団のSSFスポーツエイド助成事業（ベーシック講習会対象）、藤沢市の藤沢市公益的市民活動助成金（ジュニアプログラム対象）、松下電器のPanasonic NPOサポート ファンド（ビーチクリーン対象）の助成を受けることができた。また地元の湘南マリンライオンズクラブ様よりAED一式の寄贈をして頂いた。従来よりサポートを受けているBILLABONG様からは大会ウェア、TIMEX様からは時計・テントの提供を今年度も引き続き頂いた。さらにビーチクリン時には毎回イースト様よりコーヒーのご提供頂いた。上記以外にも多くの協力店のサポートを頂いた。ここに感謝いたします。

正直、事務局仕事は地味である。資料のコピーや封筒詰め、お金の勘定。海で行うライフセービングと程遠い。その中心的役割を果たしてくれた事務局の原伸輔君には、大きな感謝を表したい。またカレマガ（クラブ員向けメールマガジン）編集長の早川慶太郎君にも感謝したい。ほぼ月一回発行のカレマガも50号を超え、楽しみにしているというありがたい声も寄せられている。事務局は、常にサポートメンバーを募集しています。封筒詰めをしても、その仕事の先は柵警備に繋がっていると思える人。待っています！（文責：事務局担当理事 風間隆宏）



裏方として年間の西浜の活動にどっぷりとつかり、毎日がライフセービングであった。通年のビーチクリーン、ジュニアプログラム、大会、そして夏のパトロールと様々な場面で西浜の活動に関わる事務局は、西浜SLSCの大きさを実感した。

何より西浜SLSCの表面だけでなく、その活動ができる裏側には、どんな準備や努力がはらわれているのか。それを知りたくて、力になりたくて事務局という仕事をさせてもらった。毎月行われる理事会・委員長会議はいつも会の終了を2時間と目標に行うが議論が伯仲し、深夜にまで及ぶのは当たり前であった。誰も言わないが理事の方々の熱い思いがそこにあり、西浜SLSCをどういう素敵なクラブにするのか、どう運営していくのか、難しい話を楽しそうに議論している。理事・委員長という役職に誇りをもつ西浜SLSCの理事・委員長の方々には敬服である。とはいっても活動・結果が全て。昨年度は例年以上に沢山のJrプログラムやライフセービング競技会があった。特にライフセービング競技会は西浜で行われることが多く、夏も終わらぬ8月末より大会準備に追われ、パトロール・大会準備・大会出場選手と力を分散されながら全ての仕事を100%やりきることができたのは、クラブ員皆さんの力によるものだ。

そう、西浜SLSCはクラブ員の皆さん1人1人の力によって成り立っている。その力が少しでも欠けることクラブの力は1人分以上に欠けてしまうことだろう。逆にさらに1人の力が加われば、クラブの力は2倍3倍となっていく。この団結力の強さ、チームとしての突進力は西浜SLSCの大きな武器である。

ライフセービング、それ以外の場所・活動にも関係をもつ西浜SLSCの今後の活動には皆さんの力が必要だ。そしてそんなクラブの事務局としてどっぷりと西浜に関わっていけることはこの仕事の誇りであり、大きな自信につながっていく。(文責：事務局 原伸輔)

表 10-1 助成金一覧

助成金		対象事業
笹川スポーツ財団	SSFスポーツエイド助成事業	ベーシック講習会
藤沢市	藤沢市公益的市民活動助成金	ジュニアプログラム
松下電器	Panasonic NPOサポートファンド	ビーチクリーン



藤沢市公益的市民活動助成金報告会

湘南マリンライオンズクラブ様より
AED 一式の寄贈



11. サポート企業一覧

多くの企業・お店にクラブの活動を理解して頂き、サポートしていただいています。ありがとうございます。

スポンサー

『BILLABONG』 ジーエスエムジャパン株式会社

大会ユニフォーム（Tシャツ、ポロシャツ、サーフパンツなど）を全選手とIRBスタッフに提供して頂いております。



BILLABONG®

『TIMEX』 日本シーベルヘグナー株式会社

スポーツウォッチ、クラブにテントを提供して頂いております。



協力店

珈琲専門店 イースト

第1回のビーチクリーンからおいしい珈琲を提供してくれています。

ピラボン湘南店

コンペティションユニフォームも協賛して頂いている世界No.1サーフブランド！

カブリチオーザ

天気のいい日のテラス席は最高、量も多く店員さんもとても親切。

May pole

鵜沼藤が谷にある、ちょっと隠れ家的なお洒落なお花屋さん。

フリッパーブルー

鵜沼海岸の商店街にある子供服屋さん。

ラインバック

江ノ島電鉄・江ノ島駅のすぐ側、湘南のお土産を買うならここ。

カイアノア Kai a Noa

ハワイアンテースト溢れる、食事も会話もいっぱい楽しめるお店です。

share surf room

村川新プロ（クラブ理事）のサーフショップ

アクラブ藤沢

江ノ電石上駅のすぐ側にあるスポーツクラブ、朝練でも使わせて頂いています。

株式会社 湘南ライセンス

小型船舶免許合格率No.1 優しい指導員の方が分かりやすく教えてくれます。

ワイレア (Wai lea)

100%オーダーによるハンドメイドハワイアンジュエリーを取り扱っています。